

「大阪府 SDGs 有識者会議」(第 2 回) 議事録 (メモ)

- 日 時 : 令和 3 年 3 月 30 日 (火曜日) 10 時 00 分~12 時 00 分
- 開催方法 : オンラインテレビ会議システム
- 有識者 : (五十音順)
 - ・川久保 俊 氏 法政大学 デザイン工学部 准教授
 - ・草郷 孝好 氏 関西大学 社会学部 教授
 - ・田和 正裕 氏 国際協力機構 (JICA) 関西センター 専任参事
 - ・羽根田 みやび 氏 吉本興業ホールディングス株式会社 SDGs 推進本部 本部長
 - ・村上 芽 氏 株式会社日本総合研究所 シニアマネージャー
- 次 第 : 1. SDGs 普及啓発動画制作プロジェクトの成果(完成動画)発表
2. 2020 年度の事業報告
3. 2021 年度の事業予定
4. 質疑
5. その他

■ 議事録

議題 1. SDGs 普及啓発動画制作プロジェクトの成果(完成動画)発表

(川久保准教授)

- ・デザインの力で新しい価値を創出し、文化や産業の振興に努めていきたいという、バンタンさんの思いに強く共感した。学生のみなさまが作成した動画は、どれも極めて短い時間で強いメッセージ性のあるものが出来上がっていることに強く感動した。
- ・洞察力の深さ、ストーリーの組み立て方に素晴らしい能力をお持ちだと思うし、非常に多くのことを学ばせていただいた。どれも今すぐにでも様々なところで展開できると思うぐらい完成度の高いものでした。
- ・SDGs は共通言語といわれています。その SDGs という共通言語を使って (皆さんの訴えかけたい内容を) ストーリーにして伝えている点が非常に良いと思った。
- ・SDGs は一つのゴールの達成に向けて取り組んでみると、他のゴールの展開にもつながっていくものです。他のゴールとのつながりを見せることができれば、よりメッセージ性に深みが増えるような気がした。

(村上シニアマネージャー)

- ・短い時間かつ音声もない中でうまく注目させることがどの動画からも伝わってきて、すごくインパクトがあった。

(田和専任参事)

- ・非常に素晴らしい動画ばかりで、今すぐにでも使えるものばかりと思う。内容が易しく、見る側にとっても負担にならないもので、共感を覚える動画ばかりである。
- ・また、「きれいな町は心で作っていく」など作品のメッセージが素晴らしく、若者が発言することによって見る側の心に訴えかけるものがたくさんあり、非常によかった。

(羽根田 SDGs 推進本部本部長)

- ・弊社も動画制作は様々な部署で行っているが、最近は動画が溢れている中で、どのように伝えていくのか、伝え方にどんな工夫がされているかというのが非常に重要であり、発表された動画は工夫されていると思う。
- ・動画は多くの方に伝えることができ、そこに様々なきっかけをつくることもできる。また、ノンバーバルの動画は海外にも通用するものになる。このような取組みが本当に多くの方々に伝わったり、広がるとよい。

(草郷教授)

- ・制作された意図というのが伝わってきて、目的を達していると思う。
- ・できたら、今回の動画ではカバーされていない SDGs の課題があるので、例えば、働き方、子育て、高齢社会、外国人共生など。様々な視点があると思うので、これらについてぜひ掘り下げていけるとよい。

議題 2. 2020 年度の事業報告、議題 3. 2021 年度の事業予定

(村上シニアマネージャー)

- ・身近なことから取組んでいくという一貫した点は理解しやすいと思ったが、例えば、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」とかプラスチック関係で考えると、この間たくさんの技術の進歩があったり、仕組みの変化があるが、そういうダイナミックな感じがないと感じた。大胆な変革というのがあまり伝わらない。よい取組みがたくさんあるが、同時にそれだけでいいのかというのが感想。
- ・今年度のところで、SDGs 推進本部会議が、審議事項がなかったから開催されなかったというのは、必要のない会議をしないというのもよくわかるが、それでいいのかと思った。

(事務局)

- ・取組みに目玉が本当にいるのかは議論があると思うが、確かに、大胆な変革というのはこの資料では反映できていない。
- ・一方で、今回 SDGs 未来都市に採択されて、大阪府と大阪市で「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン実行計画」を取りまとめ、まさに今後これを進めていく。実行計画では、世界が取組むべき廃プラスチック問題を日本が、大阪が率先して取組んでいくにはどうしたらいいのかという点を取りまとめている。この取組みを主軸にしながら取組んでいけたらと思う。
- ・推進本部会議は、審議事項がなかったのもあるが、コロナの影響により他の会議の優先度が高かったこともある。来年度以降、状況を見つつ、アフターコロナにおける SDGs の在り方などを推進本部会議で議論すべきとなれば開催したい。

(羽根田 SDGs 推進本部本部長)

- ・有識者会議自体がどうあるべきかを私自身、見失っている部分がある。でも、こうして、皆さんとオンラインでお話をお聞きできることは大切なことと思う。私自身、東京からの参加しておりますので、コロナ禍にこうしてオンラインが普及して、身近に、ダイレクトにご意見をお聞きできるのは大変光栄。
- ・コロナによって SDGs の進め方については後退してしまったように一時期感じたが、2030 年までに、万博の開催もあり SDGs がテーマの一つとなっている中で、非常に注目もされていく。弊社ももっと進めていけることを実行に移していかないといけないと思っている。我々は、エンターテインメントを通じて、環境問題や社会問題を、まるで音楽や笑いを楽しむような場所で自然にお客様が向き合うことができる場づくりをできたらいいと思う。アフターコロナにおいて、イベントやフェスが今まで通りの開催でいいのかという点は非常に考えているところ。
- ・ゴールデンウィークに弊社がチーム関西という協議会とともに立ち上げている「Warai-Mirai FES 2021」を開催する。このイベントの下敷きとなる部分で、我々の初の試みであるフードコートはお客様に食器を持ち込んでもらうことで使い捨てをなくするというリユースの視点を、みんなの生活の中で楽しんでいくことをイベントの中で伝えていく。また、イベントでは今までも大量のごみが出るが、分別の在り方をこのイベントの会場で伝えていく。ごみを持ち帰るといことも非常に重要と思っている。イベントの中で実現していく取組みを、「笑う」や「楽しむ」だけでなく、参加者自身がこのイベントに参加することで、SDGs のアクションにつながっていくようなイベントづくりを考えている。「私の SDGs 宣言プロジェクト」もイベントの中で、それぞれがこういうことをやっていきたいと声を挙げられるような場づくりにもしたいと思っている。ぜひ皆さんとつながって何かできればと思う。

(事務局)

- ・有識者会議の位置づけは、大阪府としては、この会で何かを決めるのではなくて、多様なご意見をお持ちの皆さんにアドバイスを頂戴し、それを大阪府というより、大阪の SDGs の推進に役立っていけたらと考えている。大阪の SDGs の推進において、意見交換できる場として皆さんにもご活用いただけたらと思うし、府としてもそういう活用をさせていただけたらと思うので、引き続きよろしく願います。

(田和専任参事)

- ・大阪府の取組みとして、これまで非常に様々な施策をされており、きっちりやっておられるというのが印象。分析もされており、そこで出た弱点のアプローチも考えておられると思う。SDGs の認知度では、SDGs をよく知っている方に若年層や男性が多かったなど偏りがあるため、今後認知度の低い層にアプローチしていくというのは大事であると思う。
- ・先程、発表していただいた動画もぜひ様々なところで活用していくべきだと思う。例えば、SNS やホームページなど様々な媒体を使うことは素晴らしいことだが、若者でない世代は、どちらかというと SNS よりテレビが身近であると聞いているので、大阪府の政府広報として動画を配信すると他の層にもアプローチができるのではないかと。また、インパクトもあると思う。若者の視点が入った大阪らしいアプローチだと感じるし、そのような視点で考えられるとよいのではないかと。
- ・SDGs で取り残されている人がいないか再点検することと、そこに対する取組みの実施が重要ではないかと思う。また、既に取り組んでいることが府民にわかるような形で示されるとよい。「誰一人取り残さない」の理念に大阪府が対応していることを示すことになるし、府民により意味でのアピールになり、様々な方と一緒に取り組んでいくという機運の醸成につながる。

- ・また、関西 SDGs プラットフォームとの連携や、他府県等と連携はより取組みが実るではないか。

(事務局)

- ・動画は、例えば、電鉄会社などにご協力いただきながら、駅のデジタルサイネージを活用するなど様々な場所で提供できないかと思っているので、できるだけノンバーバルで、音声がなくても伝えたいことが伝わる工夫をお願いした。今後はより動画が活用できるように取組んでいきたい。
- ・取り残されている人が誰なのかを点検するというご指摘は、前回の会議でも頂戴しましたが、コロナの影響がある中で、実際に誰が取り残されているかは気にかけていきたいと思う。
- ・関西 SDGs プラットフォームとの連携はぜひお願いしたい。また、関西の都道府県を集めた話し合い等が実現するようなら、ぜひ大阪府お声がけいただきたいと思うし、またご相談させていただきたい。

(田和専任参事)

- ・関西広域連合も、関西 SDGs プラットフォームの事務局であるので、ぜひつないでいければと思う。
- ・府民や団体が行っている自分自身の活動が SDGs につながっているという意識づけがまだできていないと感じる。まさに大阪府の取組みの一つであるコロナと SDGs をうまく結びつけるようなことを発信していくと自分自身の活動が SDGs につながっていることの意識付けができるではないか。SDGs の観点からコロナに取組むことは、コロナの対策につながると思うし、また、コロナ対策が本来の意味での SDGs への取組みであることを伝えていくのは大阪府の役割ではないか。

(草郷教授)

- ・今年度から来年度に向けての取組みとして、SDGs を自分事化していく取組みがあるが、やはり府民の皆さんに自分事化してもらえなければ SDGs は社会実装できない。来年度も引き続き取組むことに意味があり、さらに、取組みを発展させていく必要がある。例えば、取組みを宣言した人にフィードバックしていくこと、社会に発信していく仕組みこそがすごく大事だと思う。他の人の宣言を見て、「そんな取組みでもいいのか」と思う人もいるだろうし、そもそも宣言した人自身に社会に発信されている、広がっているというところまで仕組み化できると素晴らしい。発信方法は、例えば、新聞の俳句・川柳のコーナーのところに「まちからの SDGs」として発信する、ラジオで取り上げてもらう、ケーブルテレビにも協力してもらうなど方法があると思うので、できるだけ宣言してくれたものを幅広く伝えていくということに来年度、少し軸足を置くのが大阪府の役割と思う。
- ・先程、羽根田さんからご紹介された「Warai-Mirai FES 2021」の場は貴重。例えば、愛知県の長久手市では地域単位で開催されるイベントがあり、そこで幸せについて意見交換したり、書き出してもらうことをしたところ、新しい市民グループが立ち上がって行っている。そういう場を活かせば、SDGs を自分事化する場として、とてもよい効果が期待でき、みんなの意識が広がるだけでなく、仲間づくりにもなる。そういうプラスアルファが期待できるような仕組みづくりを考えていくのが大事。
- ・資料の中で認知度のデータを紹介いただいたが、データの活用には注意をした方がいい。パネルデータでなければ正確な変化は追えないし、その時に答えてくれた方々の意識が変わると思うので、そこにあまり左右される必要はなく、データは全体でどう動いているか程度の見方でいいと思う。データにこだわるよりも、実際の取組みがどう動いているかに目を向けていくことが大事。
- ・この有識者会議では、昨年、策定した大阪 SDGs ビジョンと様々な取組みがどうつながっているかを

確認していくことが役割の一つだと思って参加している。個別の活動が進むことによって、大阪府のSDGs がどう前に進んでいくのかの評価をしていくべきだし、例えば、SDGs の自分事が進むことがなぜ大事かを落とし込めるのは、この会議しかないと思っている。SDGs ビジョンには、重点ゴールが設定されているので、特に重点ゴールに関係している取組みを推奨していく、強化していくという議論はあってもいいのではないか。そのときに、万博の開催はあるが、SDGs そのものは 2030 年を年限としているので、それを踏まえてビジョンのめざす目標が取組みと常につながっているかを確認していくことが大事だし、そういう視点からどの取組みを優先すべきかどうかを考えていくべきと思う。

- ・そのうえで、来年度の取組みとして、大阪府が立ち上げた「大阪 SDGs ネットワーク」をどう活用していくかには関心を持っており、ぜひ積極的に活用して、ビジョンや宣言プロジェクトを市町村の皆さんにも共有してほしい。このパートナーシップから出てくる取組みを発展させていく年にできたらよいと思う。具体的には、重点ゴールに関連している活動を行っている団体と積極的につながっていくことや、市町村の取組みをネットワークの中でしっかりと位置づけていくことなどができるとよい。
- ・新しい取組みをすることも大事だが、同時に既存のイベントや活動、取組みを SDGs の取組みとして認証していくことをやってもいいのではないか。企業ではそういう動きがあると聞いているので、市民団体等で SDGs に取組みをしているところを応援していく、連携していけるような仕組みをつくれるとよいと思うし、それが SDGs ビジョンを前に進めていく具体策の一つではないかと思う。

(事務局)

- ・自分事したあとのフィードバックは、今のところ大阪府のホームページに掲載するのみなので、もう少し具体的なものを検討していく必要があると改めて認識した。
- ・認知度の扱いについては、一喜一憂することのないようにということで、そこはおっしゃるとおりだと思う。
- ・今後の有識者会議では、ビジョンが一体どのように進んでいるのかというのを整理させていただいたものをご議論いただけるようにしていきたいと思う。

(川久保准教授)

- ・まずビジョンを作って、その後それを実現する計画を立案し、アクションにつなげていくという府の取組みは、順序立てていて非常によいと思っている。しかし、SDGs 未来都市計画の計画期間が短いので、その計画を中期的に伸ばしたときに、何をどこまでに達成するのかマイルストーンを置かなどの明確化がもう少し必要ではないか。有識者会議では、そういったものを検討していく場としても機能していくと思う。
- ・ビジョンには、重点ゴールが決められているが、具体的に何をやるのかがあまり議論できていない。例えば、KPI の設定など、もう少しきちんと決めていかないといけない気がする。そもそもビジョンをつくる際には、インディケータを活用されて現状把握をしていたので、次は、計画や行動に移していくときにもインディケータを活用されるとよりよいと思う。
- ・あとは、パートナーシップが重要となる。SDGs や万博は、大阪府と大阪市だけが盛り上げているだけと思われると関西全体に広がっていかない。パートナーシップを重視して他府県や市町村と一緒に盛り上げていくムーブメントにしていくために、何をしていくかをきちんと議論しておかないといけない。2025 年は SDGs 万博。2030 年まで残り 5 年という段階での開催となるので、それまでにある程度、中間成果を出さないといけないが、その中間成果は何かという議論ができていないので、今から

検討しないと間に合わないのではないかという焦りを感じている。アクションにつなげていくためにも、もう少しゴールやプランを明確化しておくことが必要と思う。

(事務局)

- ・ 実態としては、昨年度にビジョンをつくり、現在は目の前にある課題に対して取組みを進めているので、中間成果や未来都市計画をどう進めていくのかは、またご相談させていただけたらと思う。
- ・ 大阪府として、まずは 2025 に向けて取組みを加速させていく必要があるので、引き続き、ご支援、ご鞭撻のほどお願いする。

(以 上)